

2025年1月1日

Value Management Innovation

株式会社ブイ・エム・アイ総研

「活・人・経・営[®]」コラム第108回

<歴史的な転換期を迎えて>

謹んで新年のお慶びを申し上げます

昨年は総理大臣が新たに交代し、続く衆議院議員選挙では今までの与野党のバランスが崩れました。その後、米国においても熾烈な論争を経て大統領が交代しましたが、今後の経済活動にも世界的な変化が予想されます。このような政治的現象の変化は日米に限らずアジア圏や EC など、世界的な傾向でもあり、今年は社会の歴史的な転換期となりそうです。

我が国においては 20 年以上も前から危惧されてきた少子化現象がとどまることなく進み、団塊の世代も後期高齢者層に属して少子・高齢化社会を迎えました。生産年齢人口（15～64 歳）は 1995 年以降毎年減少中で、教育、子育て、年金、福祉、医療、防災、DX の推進、地方創生、インフラの老朽化・・・等々、私たちが身近に抱える問題・課題は山積みです。

このような不確実性に満ちた社会背景において、企業の持続的成長と発展を支えるための経営の骨子はイノベーションの創出でしょう。このイノベーション経営を目指す国際規格も昨秋に誕生し、時代の変化に迅速に対応できる価値創造の経営が世界的にも求められる時代となりました。

弊社では「活・人・経・営[®]」をイノベーション創出の源泉と捉えております。人や組織の**活性化**は行動エネルギーを増幅します。そして人材の**人財化**は自社の強みの強靱化や、新たな価値創造を可能にします。成功のみならずリスク対策にも通じる経営の原理・原則など時代を貫く**普遍的**な理を踏み、新たな環境の変化に柔軟に対応した**市場起こし**こそ、歴史的転換期を乗り切るための革新の道だと存じ上げます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

<現代の企業家>

今日では、経営資源の高度化・多様化が進んでいる。企業の専門化が進み、専門企業のネットワーク分業によってイノベーションを展開しなければならない。

企業は、大量生産工業のようなピラミッド型の大組織をもはや必要としない。新しい組織は水平的なチームという形をとり、個人をベースにして構築されている。さらに、専門企業の間では、個人を媒介にして情報を共有することが可能になり、競争と協調が並存している。

— 出典：「企業家とは何か」 J. A. シュンペーター著 清成忠男編訳 —